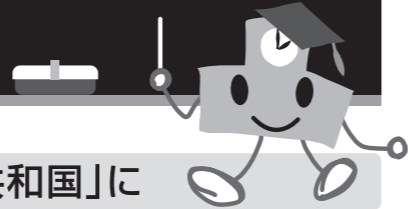


小学校の事例 豊平区 西岡北小学校

北海道初のソーラーパネル設置校。 「省エネ共和国」として、節電・節水に取り組む。

「学校の光熱水費をマイナス10パーセントにしよう」を目標に。学校生活の中でできることから始め、続けていこうという意識が高まり、実際の行動につながっている取組。



はじめに ソーラーパネル設置を機に「省エネ共和国」に

本校は平成13年、北海道の小中学校としては初めてソーラーパネル設置校となった。これをきっかけとして、温室効果ガス対策について学校全体で取組もうと「省エネ共和国」として活動を始めた。「省エネ共和国」は、財団法人省エネルギーセンターが企画・支援する省エネ活動団体であり、地球温暖化防止のためにエネルギーを考え、省エネルギー・環境・リサイクルなどを推進する地域活動の実践を、それぞれの特性に合わせたプランに基づいて目指すものである。



省エネ共和国の旗

内容 日常の行動を見直し 節電・節水行動

「学校の光熱水費をマイナス10パーセントにしよう」という目標を掲げ、節電・節水に取り組んだ。活動開始の翌年には高熱水費がマイナス10パーセントになり、それ以降も維持し続けている。

児童・教員ともに、主に学校内の廊下や教室の電気を使っていないときに「つけっぱなし」にならないように気を配った。教室内の電気については、天気がよく窓側の明るさが保てている場合には照明をつけないようにした。また、使用していないラジカセやテレビ等のコンセントを必ずぬくようにした。職員室内も同様である。学校全体で省エネルギーを身近な問題としてとらえて行動を起こすことが、使用エネルギーの削減へとつながっている。

その他、環境やエネルギーに関する学年ごとの取組は、次のとおりである。

1・2年生「水について」

普段「歯を磨いている間、水を出しっぱなしにする」とどのくらいになるかを知るため、実際に流水をバケツに溜めた。量の多さと、みんなで協力するとどのくらい節水できるかを実感させることで、児童一人一人の水の使用量が減った。

3・4年生「紙のリサイクル」

牛乳パックを使った「紙すき体験」を行い、1人1～2枚の「はがき」を完成。身近にある牛乳パックがゴミではなく、再資源化できるものであることを実感する機会となった。

5・6年生「電気エネルギー」について

手回し発電機キットを使い、60wの電球に明かりをともす実験を行った。このキットは札幌市環境局で実施している「クリック募金」を活用したものである。

また総合学習の時間に、環境に配慮して運営している企業を訪問し、「どのような取組をしているか」を質問。

さらに、6年生では地球温暖化等の環境問題や新エネルギーについて学習し、これまで積み上げてきたものをもとに家庭や地球でできる環境への取組を考え、ポスターを作成。企業やコンビニ、スーパーに掲示してもらい、省エネの大切さを呼びかけた。

ポスター内容

- 節水～水を大切にしよう！
シャワーや歯磨きの時には水を出しっぱなしにしない。
- 紙の再利用～裏が使えるものは積極的に再利用しよう。
- 電気のスイッチをこまめに切って節電しよう。



節水の工夫をポスターで掲示

効果 学校での取組から 家庭での省エネも

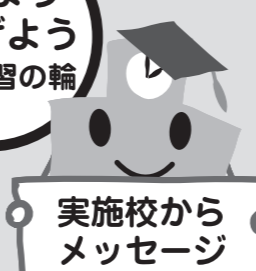
教室の蛍光灯をつけた場合の電気使用量について、「電子レンジで物を温める時と同じくらいの電気が使われている」と子どもに説明すると、「え！そんなにたくさんの電気を使っているの？」と驚き、関心をもつ。これが「学校生活の中で、できることから始め、続けていこう。」という実際の行動につながっている。

省エネ共和国の一員として、現在の電気使用量と電気料金が表示される「省エネナビ」という機械を希望する家族に貸出している。これを設置することで、家族ぐるみでの省エネ意識向上につながっている。



学校の「省エネナビ」

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

今後は「省エネ活動」を環境全体へ関連付けていけるような取組を展開していきたいと考えています。

本校では5年前から、環境バスを使って新篠津小学校を訪問し、稲を植えたり、稲刈りの作業をしたり、畑で栽培されている農作物や果物の収穫を体験する農業体験学習を行っています。秋には収穫して精米したお米を新篠津小学校の子供たちが本校に持参し、そのお米を炊いておにぎりを作り、試食。この取組をさらに発展させ、フードリサイクルや「北海道の食」についての理解を深めていけるような学習を検討しています。